

2004年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2005年1月27日

I 概要

実践団体・担当者名	田辺市立 新庄中学校 (担当者: 榎谷節生)	
連絡先	電話 0739-22-1643	
プランタイトル	「新庄地震学」	
目的	新庄地区を支える若い世代に、自然災害についての知識と理解、それに対応できる判断力や行動力を育て、この教科で学んだ成果を学校と地域で共有し、世代間の交流を生むと共に、不測の災害に備えて、地域の安全のために主体的に貢献できる心の育成を図る。	
プランの概略	<p>3年生が年間を通して選択教科や総合的な学習の時間の中で、次のような学習について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none">・地震に関する基礎的な知識・課題解決学習を取り入れ、生徒自身が選んだテーマ、例えば、地震のメカニズムや地震対策等、小グループによる学習を進め、インターネットや図書館でデータ収集。・救急救命体験学習（心肺蘇生法や応急措置）・田辺市防災訓練への参加と防災講演会。・避難経路の標識を作成し、地域に設置する。・地震や津波に関するアンケート調査実施。・新庄地震学ホームページ作成・新庄地震学まとめの発表会を12月に開催する。	
プランの対象と参加人数	本校生徒 185名 教育関係者、行政関係者、保護者・地域住民 約500名 校区内の小学校 150名	
実施日時	主な活動期間 5月～12月 12月21日 「新庄地震学」発表会	
主な実施場所	新庄中学校	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①田辺市総務課 ⑤新庄幼稚園 ②田辺市教育委員会 ⑥新庄小学校 ③新庄公民館、町内会 ⑦新庄第二小学校 ④新庄地区自主防災組織
	連携したきっかけ・理由	①本校での「新庄地震学」の取り組みは今年で4年目になり、すでに、各団体に協力・支援してもらって連携を深めてきている。
	連携団体へのアプローチ方法	①新庄町内会や自主防災組織との連携は、すべて新庄公民館の担当主事が窓口となってきており、連携団体との会議等も公民館を利用させてもらっている。
	連携団体との打合せ回数	1時間 × 10回 2時間 × 5回 (実践にあたっての準備や打合せ)
	連携団体との役割分担	①ワークショップ内容の企画・広報手段等について相談した。 ②町内会や自主防災組織の方々には、避難場所の標識を設置するにあたり、その土地の許可を得るため、地主さんとの交渉をしてもらった。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 榎 谷 節 生 (3学年主任) 担当者 中 垣 房 代 (3学年担任) 向 井 美 紀 子 (3学年副担任) 岩 本 知 久 (校長) 檜 山 克 己 (教頭)
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2003年12月 ~ 2004年 1月
	立案時間	およそ 8時間
	上記のうち打合せ回数	2時間 × 3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<p>○今まで先輩が取り組んできた「新庄地震学」の成果と課題をどうチャレンジプランの実践に生かしていくか。</p> <p>○地域の方々と交流を深め、中学生として地域に貢献できる場を設ける。</p>	
プラン立案で 苦労した点	<p>○限られた職員の中で9教科の選択授業をどのように分担するか。</p> <p>○課題解決学習のテーマをどの程度設定するか、また、生徒の間で同じテーマを選んだグループをどのように調整するか。</p> <p>○チャレンジプランの最終報告の発表が進路決定の時期と重なるので、どの学年で新庄地震学に取り組んでいくか。</p>	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	8 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 榎 谷 節 生 (3学年主任) 担当者 中 垣 房 代 (3学年担任) 向 井 美 紀 子 (3学年副担任) 太 田 有 美 (1学年担任) 中 瀬 小 百 合 (養護教諭) 岩 本 知 久 (校長) 檜 山 克 己 (教頭) 事 務 森 奈 美 (事務)

準備に要した日 数・時間	準備期間	2004年 2月 ~ 2004年 5月
	準備総時間	およそ 10時間
	上記の内打合せ回数	1時間 × 4回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	①田辺市教育委員会 ②西牟婁地方教育事務所 ③新庄幼稚園 ④新庄小学校 ⑤新庄第二小学校 ⑥新庄公民館
	どのように働きかけたか	①市教育委員会に出向き、協力や支援をもとめた。 ②関係の各園・校を訪ね、取り組みの趣旨を説明し参加及び協力を求めた。
	結果	①市教育委員会より、管轄の幼稚園・小・中学校に対し、本校の取り組みを紹介してもらった。 ②公民館が全面的に協力してくれることを約束してくれる。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	①新庄町内会 ②新庄地区自主防災組織 ③田辺市総務課
	どのように働きかけたか	新庄公民館が主催する町内会等の会議で「新庄地震学」について啓発してくれた。
	結果	①市が取り組んでいる防災関係の資料等をいただいた。 ②地方新聞等において本校の取り組みを紹介してもらった。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	①本校育友会
	どのように働きかけたか	①学校だよりや学年だより等で保護者に「新庄地震学」の取り組みをお知らせする。 ②地区懇談会や学年懇談会等で協力を呼びかける。
	結果	①本校の取り組みを理解していただき、協力体制ができ、学校で自然災害に備えて学習してくれるのでたいへんありがたいし、「新庄地震学」の取り組みに期待しているとの声が寄せられている。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：スクリーン、プロジェクター、PC、板材、非常食 コンクリートパネル、ハレパネ、非常用トイレ、 絵の具、カッター、ハサミ等 ○教材：稲むらの火（小泉八雲 作） 津波ものがたり（山下文男 作）
	入手先・入手方法	○機材：スクリーン、プロジェクタ、PCは本校のものを利用 ○教材：本校の図書館を利用、インターネット、県・市立図書館
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	○機材：映像を通じて学習内容を紹介するため 避難場所の看板を地域に設置するため ○教材：防災教育の具体例が出ているため

参加者の募集	募集方法	新庄地震学発表会を開催するにあたり ①保護者、教育関係機関への案内配布 ②新庄公民館報による広報
	募集期間	2004年 12月 1日 ~ 12月 20日
	参加予想人数	300名
	実際の参加人数	310名
	募集方法の成功点	○新庄公民館の支援により全地域に案内が配布された。 ○教育関係者が大勢参加してくれた。
	募集方法の失敗点	○市内の幼・小・中学校の先生方にも案内を配布すれば、より多くの参加が見込めたかもしれない。
準備で苦労した点・工夫した点	<p>○発表をより分かりやすくするため、プロジェクトを使用するだけでなく、救急救命措置など実技を交えて行った。</p> <p>○チャレンジプランの中間報告会で、審査員の先生方から指摘された次の二点について検討し、実施に向けて取り組んだ。</p> <p>①選択教科（8教科）で新庄地震学を取り組んできたが、音楽教科のテーマがなかった。被災したとき、音楽はとても重要な役割を果たす。</p> <p>②防災に関するアンケートの分析を専門家に依頼し、課題等を明らかにしてはどうか。</p> <p>◇①に関しては、その後生徒と相談・工夫し、新たなグループ分けを行い、テーマを「災害後に聞きたい音楽」と設定し取り組みを進めた。</p> <p>②に関しては、和歌山大学の教育学部（此松助教授）にアンケートの分析をお願いした。</p>	

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市教育委員会と打合せ ○ 市総務課防災担当者と打合せ ○ 12/25 第1回打合せ 「企画内容について」 		
2004 1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1/7 第2回打合せ 「企画書の作成」 ○ 1/23 第3回打合せ 「申請書の作成」 「役割分担について」 		
2月		○ 2/16 第4回打合せ 「選択教科の内容について」	
3月		○ 3/22 第5回打合せ 「新年度への引継ぎ事項について」	
4月		○ 4/28 第6回打合せ 「本年度の選択教科の方針等について」	
5月		○ 5/19 第7回打合せ 「地震学の選択教科のテーマについて」 「生徒のグループ分けについて」	
6月		○ 6/30 第8回打合せ 「地震学の進捗状況について」	○週1時間、選択学習の時間を利用して、グループに分かれ、課題解決学習を行う。
7月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 7/20 第9回打合せ 「地震学の進捗状況について」 ○ 7/14 町内会・自主防災組織の役員との打合せ 「新庄地震学についての協力を得るため本校の取り組みを説明する」 	○週1時間、選択学習の時間を利用して、グループに分かれ、課題解決学習を行う。
8月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 8/6 市総務課防災担当者と打合せ 「田辺市防災訓練の実施に向けて」 ○ 8/26 市総務課防災担当者と打合せ 「田辺市防災訓練当日の日程について」 	○8/29 田辺市防災訓練に参加。 ○津波を想定した立体地図の製作（夏休み生徒が自主的に登校して製作）
9月		○ 9/2 第10回打合せ 「2学期の地震学の進め方について」	○週1時間、選択学習の時間を利用して、グループに分かれ、課題解決学習を行う。

10月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 10/6 第 11 回打合せ 「地震学の進捗状況について」 「総合的な学習の時間の利用について」 	<p>○週 1 時間の選択学習、月 4 時間、総合的な学習の時間を利用して、課題解決学習やパワーポイントの作成。</p>
11月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 11/1 第 12 回打合せ 「文化祭で学年として取り組む演劇『稲むらの火』について」 ○ 11/4 町内会・自主防災組織の役員との打合せ 「避難場所標識設置について」 	<p>○文化祭 11/21 にむけて演劇「稲むらの火」の練習。 ○放課後、避難場所標識の設置 ○紙芝居「最後のうしろ姿」を小学校 2 校で実演。</p>
12月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 12/1 第 13 回打合せ 「新庄地震学の発表会について」 「子どもぼうさい甲子園参加について」 ○マスコミリリース（当日取材依頼） ○当日配布資料印刷 ○看板の準備 ○機材・備品の準備 	<p>○12/21「新庄地震学発表会」開催</p>
2005 1月		<ul style="list-style-type: none"> ○担当生徒、発表練習。 ○機材・備品の準備、冊子作りの準備 ○1/21 第 13 回打合せ 「本年度の反省」 「報告書作成」 	<p>○1/8「子どもぼうさい甲子園」において実践発表。</p>

V実践の詳細 【B. イベント】(イベント当日の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。)

時間	場所	活動内容	指導者 講師等	使用機材・ 教材等	留意点	参加者の反応・声	苦労した点・工夫した点	スタッフ(団体内・外部)の人数・役割
10:00	神戸文化 ホール	平成17年1月8日(土) 「子どもぼうさい甲子園」に1発表校として参加				参加した生徒の声		
11:00						「子どもぼうさい甲子園」で私たちは「新庄地震学」を伝えるために、神戸に行ってきました。そこでは、小・中学校合わせて11校が発表しにきていました。どの学校もいろいろ工夫を凝らし、分かりやすく説明していました。		
12:00		発表生徒3名・引率教師会場入り ・座席レイアウトの確認 ・進行リハーサル ・配布資料の確認 ・機材の確認		参加者名札	・他校の取り組みから学ぶ。	土砂災害に備えるために植樹を行っている中学校。国境を越えイランの子どもたちに、自分たちが描いた絵や募金を送っている小学校。地震から家を守るため耐震チェックを行っている中学校など、私たちが考えつきもしないような発表がいくつもあり、すべてためになることばかりでした。	発表の時間が10分なので、要旨をまとめるのが難しかった。	
13:00		● 表彰式			・防災教育を通して交流を深める	その中でも、私が一番心を打たれたのは、愛知県の布土小学校の生徒が手話つきで歌ってくれた「しあわせ運べるように」という歌と、地元神戸の渚中学校の人たちによる創作ミュージカルです。「しあわせ運べるように」は、聴きながらとても感動しました。小学校の子どもたちがあの歌で多くの人たちに、地震のとき、みんなの協力の大切さなどを教えていました。また、ミュージカルの方は、地震という体験しなければ分からないことを、ミュージカルというみんなが分かりやすい形にして、体全体を使って訴えてくれました。同じ中学生なのに、ここまでできるのかとびっくりしました。		
14:00					・中学生としてのマナーを守る			
15:00		● 発表 「9教科で学ぶ防災学習」 ・紙芝居「最後のうしろ姿」中心に発表	PC プロジェクタ スクリーン					
16:00								
17:00								
18:00		● 「しあわせ運べるように」 参加者全員で合唱し幕を閉じる		*講評 人と防災未来 センター				
19:00								

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(学習の準備段階から授業時間(コマ)毎に記載して下さい。)

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点			
1	8月29日	体育館	○事前学習 ○「炊き出し」の準備	田辺市防災訓練に3年生全員参加 ・地域の一員として、積極的に取り組むこと、 もしもの時、若い君たちが大いに役立つこ とを説明	・地域の安全を守るために 地域の方々との協力	・講師の話しに耳を傾け、積極的に理解し ようとしているか。	スクリーン ビデオ プロジェクター	・恐怖感だけを残すのではなく、地震に 立ち向かうためには何をしたら良い のかという発想にいかにもっていく か。			
	8:30		○「地震講座」 地震のメカニズム、地震による被害 写真等、ビデオ上映。参加された地 域の方々と共に鑑賞。	外部講師(田辺市総務課) ・地震に備えて何が必要か ・地域住民としての心得					・災害後の支援のあり方	・自分たちは、地域の中で何が できるか、 考えようとしているか。	・地域の方々 の参加数 がはっきり しない ので、 お米を どれくら い用意し たらよ いか。
	9:00		○「炊き出し訓練」 地域の方々とおむすびを作り、 参加していただいた地域の方々に 配る。	外部講師(田辺市赤十字奉仕団) ・衛生面の指導 ・おむすびのにぎりかた							
	9:30	グラ ンド	○「放水訓練」 田辺市消防団の協力により、グラ ンドにおいて放水訓練を行う。	外部講師(田辺市消防団) ・水圧に負けないようしっかりホースを支える	・体験学習を通して、防災 意識を高め、地域の防災 に貢献できることは何か に気づく	災害用移動炊飯器 お米、梅干、 ビニール袋、パック・輪ゴム 机、放水訓練用の					
	10:15	○講座の感想を発表 ○外部講師による講評									
2.	11月21日 文化祭	体育館	校内文化祭において演劇「稲むらの 火」を発表 ○事前学習 ・脚本決定 ・配役 ・照明、衣装など大道具・小道具の 準備 ・劇の練習	・演劇を通して在校生や保護者・地域の方々に津 波が発生したときどのような行動をとれば良い のかを考える機会にする。 ・浜口梧陵のように、他の人々の為に自分の財産 を費やすことの価値について考えさせる。 ・地震学を後輩に受け継いでいくため、この劇を 導入として考えてもらう。	・総合的な学習の時間を使 って、発表用に脚本を作 ったり、配役を決めたり する。 ・裏方で活動する生徒は、 劇に使用する道具等を準 備、作成する。	・学年の一人ひとりが自分の役割を理解し 取り組んでいるか。 ・お互い協力しながら劇に取り組んでいる か。 ・発表の内容をうまく参加者に訴えること ができたか。	PC プロジェクター 照明 衣装 大・小道具類	・参加者のみなさんに、はっきり台詞が 伝わるよう、出演者一人ひとりが自覚 し、ゆっくり丁寧に声を出すこと。 ・時代背景や雰囲気作り ・津波の映像をどのように現すか。 ・稲むらの火をどのようにセットする か。 ・それぞれの場面で音響をどのように設 定するか。			
	9:00		文化祭 スタート								
	10:00 10:25		劇「稲むらの火」発表 小泉八雲の名作「生ける神」をもと にして、教科書用テキストに作られ たもので、和歌山県有田郡広川町に 生まれた浜口梧陵の崇高な生き方 を教えている。								
	15:30		文化祭の発表の感想文を書く								

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(学習の準備段階から授業時間(コマ)毎に記載して下さい。)

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
3	12月21日 「新庄地震学」発表会 13:30	体育館	<p>生徒は教科ごとに系統的・発展的に調べた内容を、9教科16グループに分かれ発表する。</p> <p>○国語 震災体験の語りや詩・俳句等を取り上げて、人々の心情や訴えている内容を探求する。</p> <p>①紙芝居「最後のうしろ姿」製作</p> <p>○社会 「新庄と地震」・「新庄の地震」等の文献や地域の文化財から新庄の地震について歴史的に探求する。</p> <p>②日本の地震の歴史</p> <p>③新庄地区の津波被害(新庄地区の立体地図の製作)</p> <p>○数学 南海沖地震の発生をシュミレーションし、震源や地震規模から、新庄への津波の到達地点や規模について探求する。</p> <p>④地区住民の地震に対する意識調査</p> <p>⑤津波が新庄地区に到達する時間</p> <p>○理科 地震そのもののメカニズムについて探求する。</p> <p>⑥地震の起こる原因と構造</p> <p>⑦津波発生のメカニズム</p> <p>○美術 地震・津波等に対する地域住民への広報活動を探求する。</p> <p>⑧広報活動「避難場所」標識の作成</p> <p>○音楽 地震発生後に、音楽が人々にどのような影響を与える探求する</p> <p>⑨災害後に聴きたい音楽</p> <p>○保健 地震発生時の救命行動について探求する。</p> <p>⑩応急措置の方法</p> <p>⑪地震から身を守る方法</p> <p>○技家 地震発生時のライフラインの獲得方法を探究する。</p> <p>⑫災害発生後に必要なもの</p> <p>⑬災害発生後、何ができるか</p> <p>⑭地震・津波等に対する様々な対策</p> <p>⑮パンフレット作り(暮らしの安全読本)</p> <p>○英語 各国の地震に対する危機管理パンフレットなどを、インターネットによって集め、各国の地震への備えを探求する。</p> <p>⑯世界の地震と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表する態度も大切だが、聴く態度も大切であることを知らせる。 校区の小学校6年生も参加しているので、なるべく分かりやすく、ゆっくり説明する。 グループごとの発表を聞きながら、地震に備え自分たち学校生活や、家庭生活でできることは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の安全を守るため地域の方々との協力 災害後の支援のあり方 災害発生時の対応 体験学習を通して、防災意識を高め、地域の防災に貢献できることは何かに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表の話しに耳を傾け、積極的に理解しようとしているか。 家庭や地域の中で主体的に安全な行動ができる態度や能力を身につけているか。 基本的なマナーを守っているか。 	<p>PC スクリーン プロジェクター ダミー 立体地図</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで調べたことをパワーポイントで発表するため、まとめるのに苦労した。 地震に立ち向かうためには何をしたら良いのかという発想にいかにもっていくか。 発表の仕方、例えば、パワーポイントで発表するだけでなく、実演を交えて発表する等工夫した。
	15:30							

